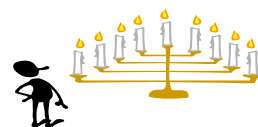


キャンドルのつどい



1 活動のねらい

コミュニケーション能力	自分のことは自分でする	何事も最後までやり遂げる	リーダー性	自己をふり振り返り、集団を見つめ直す	自然に親しみ、環境について考える
○			◎	◎	

2 概要



キャンドルの火を囲み、ゲーム・歌・ダンスなどをおとして、全員が心を通わせ、連帯感や友情を深め、楽しい思い出をつくりながら、研修のまとめや自己を深く見つめる機会にすることができます。

3 対象及び活動形態

幼児～成人(200名程度まで)

4 活動の流れ(例)

準備・リハーサル	45分
1部	20分
2部	内容に応じて
3部	10分
片づけ	10分

会場設営、役割の確認
1・3部のリハーサル
※立ち位置・係ごとの動き方等の確認

迎え火のつどい

交歓のつどい
(レクリエーション・出し物)
内容は、各団体で工夫しましょう。

送り火のつどい

片付け

- ・燭台・軍手等の片づけ(倉庫)
- ・CDデッキ等の返却(事務室)



キャンドル燭台



ポイント

1・3部は**厳粛**、2部は**楽しい雰囲気**で行います。

キャンドルの係や出し物をする人は、**事前にしっかり準備**しておきましょう。

5 準備物

- 『青年の家』 ローソク(火の神用)、燭台、トーチ、衣装、音響機器(CDプレイヤー、CD、マイク、スピーカー)
『団体』 ローソク(火の守×2本:5号程度)、小型懐中電灯、チャッカマン、第2部に必要な用具

6 当日実施までにしておくこと…係・役員の選出と台詞の確認・練習

役割分担例(人数)	第1部	第3部
責任者(1):成人	司会の補助と安全管理を行う	
火の長(1):成人	はじめの言葉	静火・まとめの言葉
音響(1)・照明(1):成人	場に応じた音響の調整・照明の調整	
火の神の補助(1):成人	火の神のローソクへの点火	
司会(2)	プログラム全体の司会進行を行う	
火の神(基本1)	入場・分火	静火・退場
火の守(最大8)	燭台への点火・誓いの言葉	
祈りの言葉(1~数名)	祈りの言葉	
献詩(2)	詩の朗読	